



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2022年7月20日 No.500

新幹線車両センター業務執行体制の見直しについて 新幹線統括本部より提案を受ける

東日本ユニオンは7月20日、新幹線統括本部より「新幹線車両センター業務執行体制の見直しについて」の提案を団体交渉で受けました。本提案は「新幹線電車のメンテナンスを持続的に実施していく」ことを目的に「新幹線車両センター業務執行体制の見直しを行う」としています。

○実施事項

- ・交番検査における作業工程や作業分担を見直し、業務執行体制を変更する

○実施個所

- ・盛岡新幹線車両センター、秋田新幹線車両センター

○実施時期

- ・2022年10月1日



○実施内容

▼盛岡新幹線車両センター

現行より1名減の体制とする
作業効率向上のため休憩時間帯を見直す
電気担当は新たに車軸深傷作業を担当する
新たに機動担当を設置し、臨修作業等を担当する

▼秋田新幹線車両センター

現行より2名減の体制とする
総括、保安、運転台担当が摩耗品の取替補助を行う
号車担当および車軸深傷担当が受け持つ車両数を見直す

○提案箇所体制

▼盛岡新幹線車両センター

	現行			改正		
	変形等	交代	計	変形等	交代	計
管理	3	2	5	3	2	5
一般	32	2	34	31	2	33

▼秋田新幹線車両センター

	現行			改正		
	変形等	交代	計	変形等	交代	計
管理	4		4	4		4
一般	18	2	20	16	2	18

＜新幹線統括本部の主な考え方＞

- ・2019年から「効率的な業務執行体制」の業務研究を行い、試行を重ねてきた。
- ・交番検査に必要な1日あたりの出面数は、盛岡新幹線車両センターが現行の「12名」から「11名」、秋田新幹線車両センターは現行の「11名」から「9名」としていく。
- ・作業の待ち時間解消のため、グループ会社社員とJR社員の休憩時間をずらしていく。(JR社員は13時～14時)
- ・環境や設備に違いはあるが、内容を見ながら他の新幹線車両センターにも水平展開していきたいと考えている。

安全でお客さまに快適な新幹線車両を提供していく必要がある！

「安全」「社員教育」「働きがい」「社員の生活」などの現場視点から議論をつくりだそう